

愛知県蒲郡市で確認された県内初記録となるチャガシラカモメ *Chroicocephalus brunnicephalus* (チドリ目カモメ科)

高木慎介¹⁾

First record of Brown-headed Gull
Chroicocephalus brunnicephalus (Charadriiformes: Laridae) from Aichi prefecture

Shinsuke Takagi¹⁾

はじめに

チャガシラカモメ *Chroicocephalus brunnicephalus* (Jerdon, 1840) は国内では2002年5月30日に千葉県銚子市及び茨城県神栖市波崎町のみで記録がある迷鳥である (大関・楠窪, 2005; 桐原ほか, 2009; 氏原・氏原, 2019; 日本鳥学会, 2024)。1996年12月に沖縄県でも観察例があるとされるが (桐原ほか, 2009), 沖縄野鳥研究会 (2010), 日本鳥学会 (2024) では本記録を認めていない。国内の本種の記録は2002年5月の国内初記録以降途絶えていたが, 2023年2月4日及び5日に鹿児島県枕崎市で第2回冬羽1個体が観察・撮影された (加藤銀次私信)。さらに同年3月4日に茨城県神栖市波崎町及び千葉県銚子市で成鳥冬羽1個体が観察・撮影され (福田, 2023), その後, 3月11日まで千葉県銚子市に滞在した (福田篤徳私信)。筆者は同年3月12日から5月3日にかけて愛知県蒲郡市において本種1個体を観察・撮影し, 第2回冬羽から第2回夏羽への換羽状況を確認した。本記録はチャガシラカモメの国内4例目, 愛知県からは初めての記録であり, 本種の冬羽から夏羽への換羽状況を確認した長期滞在の例は国内でも初めてとなる貴重な記録であるため, ここに報告する。

なお, 本稿では日本鳥学会 (2024) に掲載のない種については, 和名は用いず, 学名のみで示した。

観察日時・場所

2023年3月12日から同年5月3日までの期間において, 愛知県蒲郡市春日浦海岸 (34° 48' 13.7" N, 137° 11' 34.7" E 付近) から同市西田川河口 (34° 48' 47.7" N, 137° 14' 21.4" E 付近) にかけての海岸線で観察した (第1図)。具体的には, 3月12日に竹島埠頭緑地 (34° 49' 20.8" N, 137° 13' 03.8" E 付近) で観察し, 同月18日, 19日及び4月7日に春日浦海岸で観察した。また, 3月19日には拾石川河口 (34° 48' 51.5" N, 137° 12' 08.0" E 付近) 及び尺地川河口 (34° 49' 20.9" N, 137° 12' 39.1" E 付近) でも観察した。4月15日, 16日, 19日及び24日には竹島園地 (34° 48' 52.9" N, 137° 14' 02.5" E 付近) から西田川河口にかけて観察した。また, 24日は竹島埠頭の沖堤 (34° 48' 53.5" N, 137° 13' 30.5" E 付近) でも観察した。4月30日, 5月1日及び3日は竹島埠頭の沖堤から竹島埠頭緑地付近の海面で観察した。

観察した環境

春日浦海岸から西田川河口にかけての海岸は遠浅海岸であり, チャガシラカモメが確認された春日浦海岸, 拾石川河口, 西田川河口~竹島園地は干潮時に砂質の干潟が広がる。春日浦海岸と西田川河口~竹島園地は潮干狩り場として管理されており, また, 竹島園地は

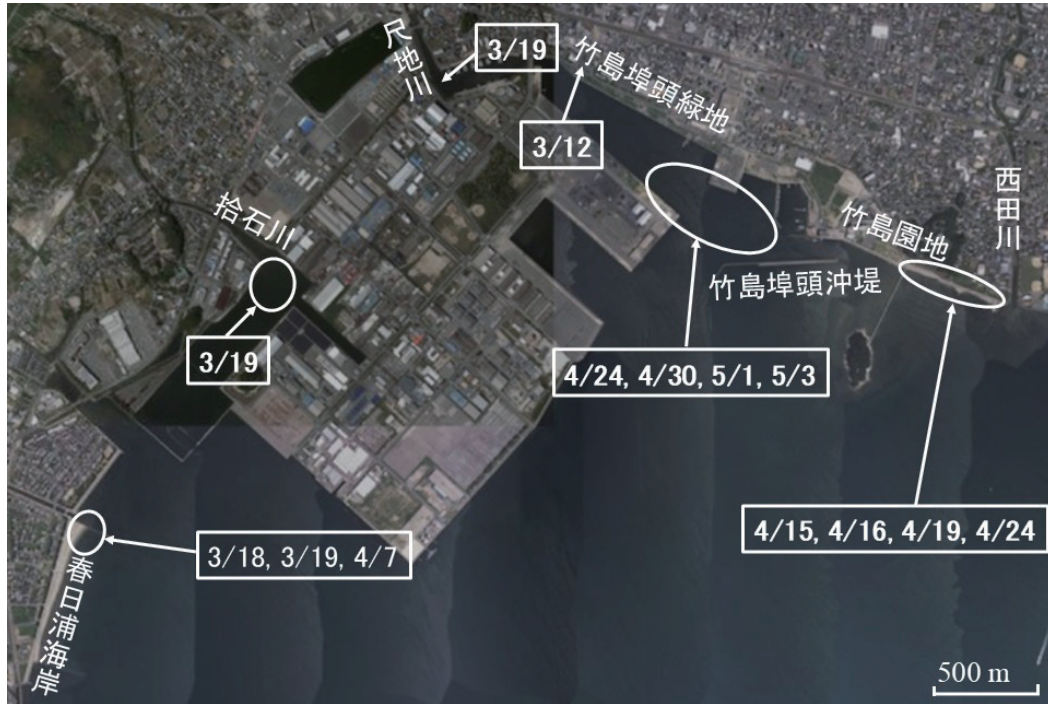
¹⁾ 愛知県豊橋市西高師町字小谷 26-21. 26-21 Kotani, Nishitakashi-cho, Toyohashi, Aichi 441-8154, Japan. E-mail: k6117824@kadai.jp

原稿受付 2024年10月4日. Manuscript received Oct. 4, 2024.

原稿受理 2024年11月29日. Manuscript accepted Nov. 29, 2024.

キーワード: *Chroicocephalus brunnicephalus*, チャガシラカモメ, 蒲郡市, 愛知県初記録, 冬羽から夏羽への換羽。

Key words: *Chroicocephalus brunnicephalus*, Brown-headed Gull, Gamagori city, First record in Aichi prefecture, Moulting winter to summer.



第1図. チャガシラカモメの観察地点.

国土地理院地図 Vector (<https://maps.gsi.go.jp/vector/#7/36.104611/140.084556/&ls=vstd&disp=1&d=1> 2024年11月12日閲覧)を加工して作成.

観光地として整備されているため、行楽客が多い。竹島埠頭は港湾設備として整備されており、埠頭西側の竹島埠頭緑地は市民の憩いの場となっている。尺地川は竹島埠頭緑地から西側およそ500mの地点で、蒲郡港に注いでいる。これらのエリアには冬季にユリカモメ *Chroicocephalus ridibundus* (Linnaeus, 1766) が群れで渡来するが、大型カモメ類や中型カモメ類の渡来は少ない。

観察距離

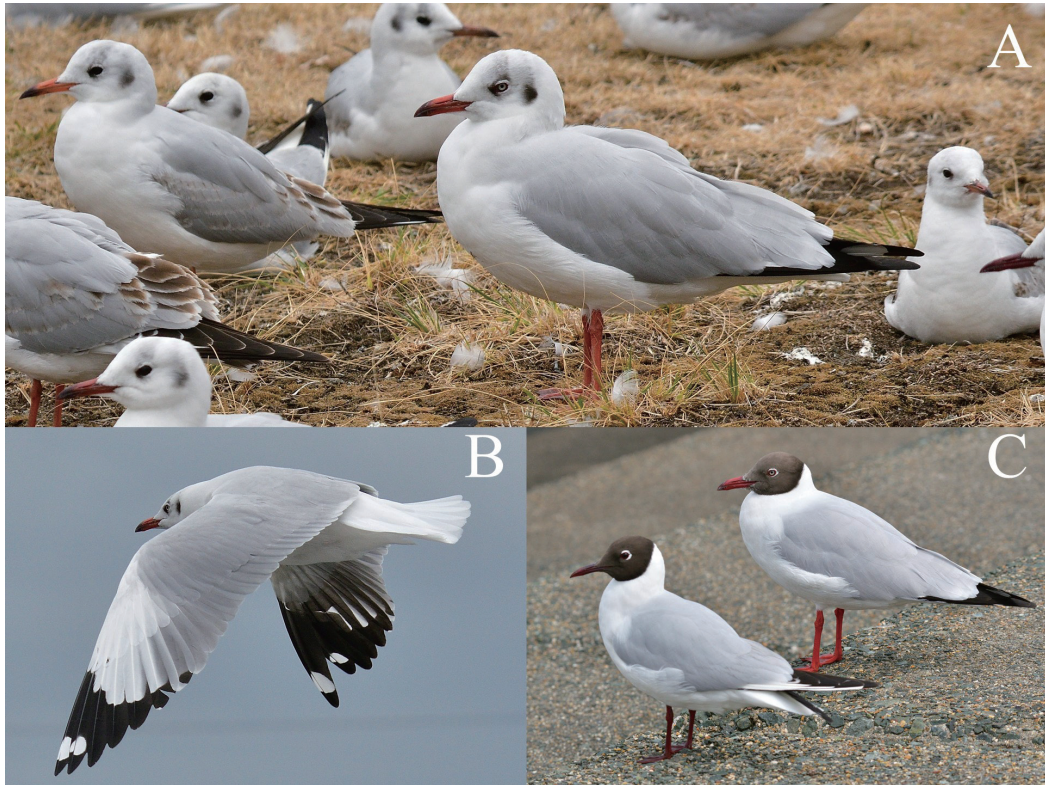
3～400m程度の距離で観察した。12倍の防振双眼鏡と25～60倍の望遠鏡を用いて観察し、デジタル一眼レフカメラに焦点距離150～600mmのレンズを装着したものと、焦点距離800mmのレンズに1.4倍のテレコンバータを装着したものをを用いて撮影した。

種及び齢の同定

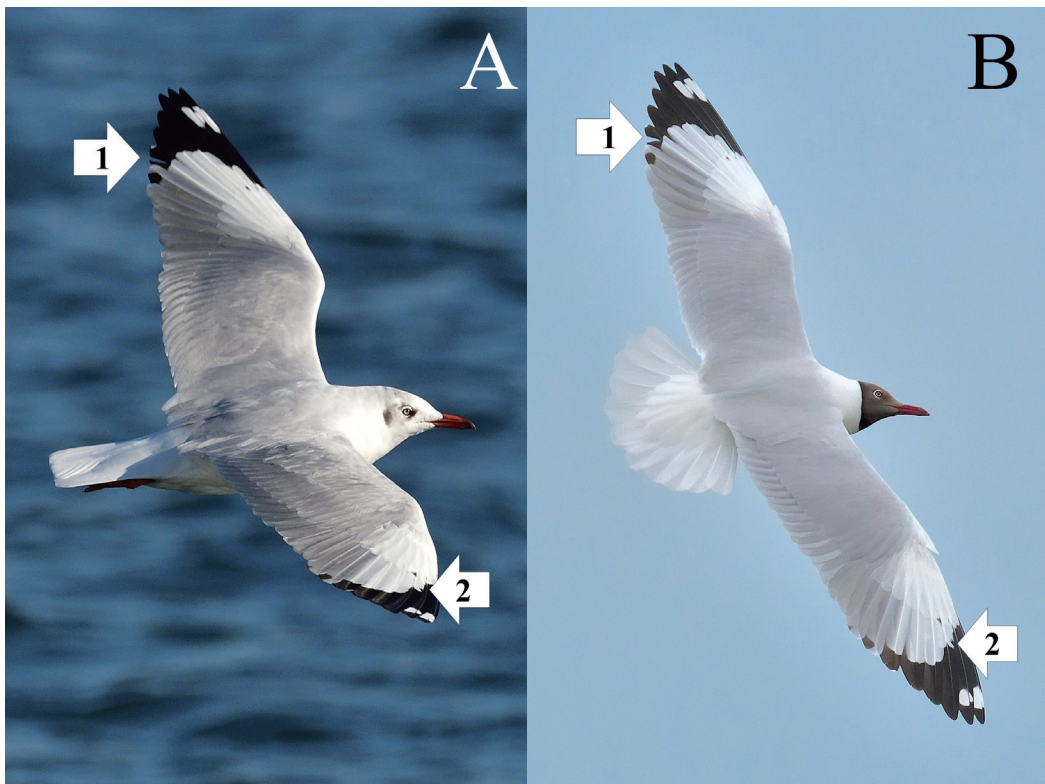
冬羽の時点で、当該個体はユリカモメに外見が似ていたが、ユリカモメと比較して一回り大きく、嘴と足が赤く、虹彩は淡色で、翼端は黒く、外側初列風切2枚にミラーがあった(第2図A, B)。これらの特徴に合致するカモメ科 Laridae の種は、チャガシラカモメ、

Chroicocephalus cirrocephalus (Vieillot, 1818), *Chroicocephalus novaehollandiae* (Stephens, 1826) が該当する (Olsen, 2018)。これらの種のうち、当該個体のように冬羽で目先と耳羽に暗色斑があるのはチャガシラカモメだけである。また、当該個体は夏羽に換羽した際に頭部が頭巾状に茶色になった(第2図C)が、この特徴もチャガシラカモメのみに該当する (Olsen, 2018)。国内に一般的に渡来する種の中では、ユリカモメが最もチャガシラカモメに似るが、前述した大きさ、淡色の虹彩、外側初列風切のミラーの他、翼端の黒色部が三角状に黒いこと、翼端の黒色部の内側の白色部が大きいこと、夏羽の頭巾状の暗色部の褐色みが強いことがユリカモメとは異なった。チャガシラカモメはユリカモメやハシボソカモメ *Chroicocephalus genei* (Brème, 1839) との交雑例があるが、当該個体はチャガシラカモメの特徴によく一致し、他種との交雑を疑う特徴はみられなかった (Olsen, 2018; 氏原・氏原, 2019)。よって、当該個体をチャガシラカモメと同定した。

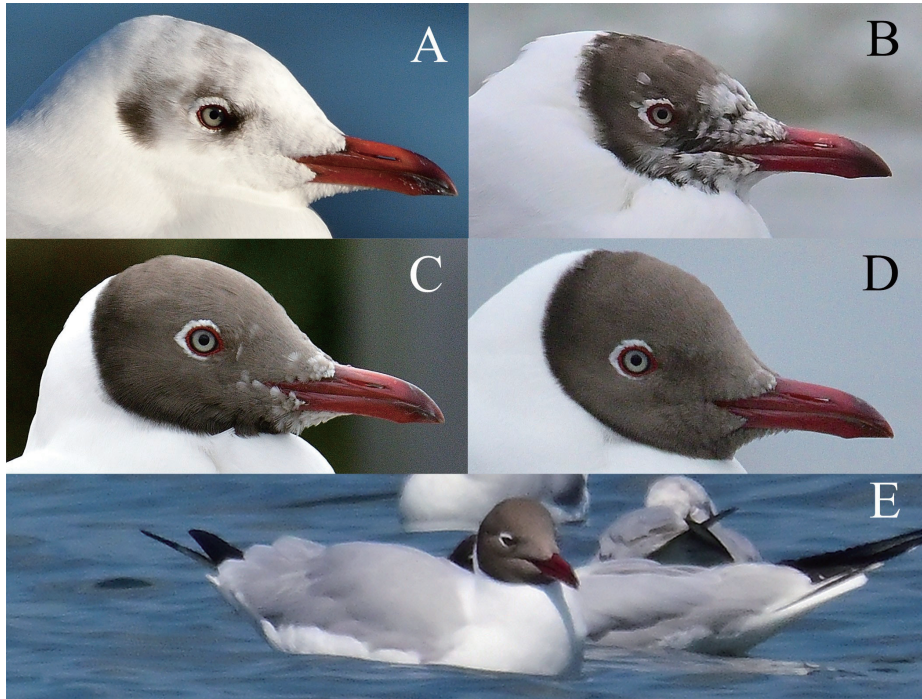
チャガシラカモメの第2回冬羽、第2回夏羽は成鳥に似るが、ミラーが比較的小さく、初列雨覆、小翼羽に黒斑が残ることが多く、次列風切、三列風切、尾羽に黒斑が残る場合もあるとされる (Olsen, 2018; 氏原・氏原, 2019)。当該個体は成鳥に似た外見だが、ミラーが比較的小さく、初列雨覆に暗色斑があることから齢



第2図. 蒲郡市で観察されたチャガシラカモメ。
A, 中央がチャガシラカモメ, 周囲はユリカモメ; B, 翼上面; C, 右がチャガシラカモメ, 左はユリカモメ (A, Bは2023年3月12日撮影, Cは2023年4月19日撮影)。



第3図. 2023年3月19日に蒲郡市で撮影したチャガシラカモメ第2回冬羽 (A) と同年4月24日に蒲郡市で撮影したチャガシラカモメ第2回夏羽 (B) の比較。
矢印1は左翼初列風切第5羽先端内弁の欠損を, 矢印2は右翼初列風切第8羽基部外弁の欠損を示した。



第4図. 蒲郡市で撮影したチャガシラカモメ第2回冬羽～第2回夏羽の頭部の換羽状況. 撮影日はそれぞれ, A, 2023年3月19日; B, 同年4月7日; C, 同年4月15日; D, 同年4月24日; E, 同年5月3日.

は, 発見時は第2回冬羽で, 以降, 観察期間中に第2回夏羽へと換羽していったと判断した(第2図B).

観察状況

観察期間中は, いずれの日もユリカモメ群と行動を共にしていた. ユリカモメ群の規模は日によって異なっていたが, 数十羽～500羽程度だった. 発見時の2023年3月12日の竹島埠頭緑地では休息と羽繕いのみを観察し, 3月18日～4月7日に春日浦海岸で観察した際には休息と羽繕いの他, 水浴びと採食行動も観察した. 採食内容は, 春日浦海岸北側に注ぐ天神川河口に上流から流れ落ちてくる魚類の死体だったが, 具体的な魚種は特定できなかった. 3月19日に拾石川河口及び尺地川河口では, 休息, 羽繕い, 水浴びを観察した. 4月15日～24日に竹島園地から西田川河口にかけて観察した際には, 休息, 羽繕い, 採食行動を観察した. このエリアでは観光客がユリカモメにパンを与える光景をよく目にするが, 当該個体もユリカモメに混じって観光客から与えられたパンを採食していた. 4月30日～5月3日に竹島埠頭近辺で観察した際には, 基本的に沖堤の上あるいは海上に浮かんで休息をしていた. 当該個体が属するユリカモメ群には観光客がパンを投げると食べに来る個体が一部いたが, 当該個体

はパンを取りに来ることはなかった. このユリカモメ群の大部分の個体はスナメリ *Neophocaena asiaorientalis* (Pilleri & Gahr, 1972) の群れを追跡して採食行動をしていた. 当該個体が直接その行動を取っているところは観察できなかったが, この期間は同様の採食行動を取っていた可能性が考えられた. 観察期間中に鳴き声を発することはほとんどなかったが, 一度だけユリカモメよりも少し低い「ギー」という声で鳴いたのを観察した. 後述するが, 2023年1月～5月にかけては日本, 韓国, 中国東部沿岸部, 台湾において9例の記録があり (<https://ebird.org/home> 2024年9月21日閲覧), チャガシラカモメが国内で稀な鳥種であるとはいえ, 個体の入れ替わりも生じ得る状況だった. 観察期間中の個体の同一性については初列雨覆及び初列風切の模様, 左翼初列風切第5羽(外側から6枚目の羽)先端内弁の欠損, 右翼初列風切第8羽(外側から3枚目の羽)外弁基部の欠損, 換羽の進行状況により判断した(第3図).

換羽状況

3月12日～3月19日までは頭部は冬羽の状態だった(第4図A)が, 4月7日に観察した際には, 嘴基部から額及び嘴基部から喉を除き, 褐色の頭巾状の夏

羽に換羽していた（第4図B）。4月15日に観察した際は、頭部の冬羽は嘴基部周囲に残るのみとなっており（第4図C）、その後は徐々に白い冬羽が減少し、4月24日時点では、ごく僅かな冬羽が嘴基部周囲に存在する程度となった（第4図D）。4月30日～5月3日の観察では、一見して頭部に冬羽は残っていないように見えた（第4図E）が、この期間は最も近い距離でも200m程度の距離でしか観察できず、条件によっては嘴基部に白い羽毛が存在するようにも見え、頭部の全ての羽毛が夏羽に換羽したかどうかは判断できなかった。Olsen (2018) にはチャガシラカモメの第2回冬羽から第2回夏羽にかけての換羽の記述はないが、成鳥の冬羽から夏羽への換羽については、頭巾は2月中旬から下旬に現れ始め、頭部の50%が換羽するのは2月下旬から3月で、3月下旬にはほとんどの個体は夏羽に換羽するとの記述がある。当該個体は4月7日に頭部の50%を超える程度の夏羽への換羽状況であり、Olsen (2018) の記述よりも進行に遅れがある。この遅れの原因は不明だが、齢差、個体差、栄養状態などが考えられる。

考 察

2023年1月～5月にかけて、国内では本記録を含めてチャガシラカモメが3例記録された。eBirdを用いて同期間の中国東部沿岸部、台湾、韓国の写真を伴う記録について検索を試みたところ、浙江省1例、江蘇省2例、台湾2例、韓国1例の記録を確認した (<https://ebird.org/home> 2024年9月21日閲覧)。これらの記録はいずれも第2回冬羽以降の個体の記録であり、当歳個体は認められなかった。また、観察時期や特徴から、蒲郡市に渡来した個体と他所で観察された個体で同一個体と思われるもの認められなかった。本種は本来、アラル海から中国西部にかけてのチベット高原で繁殖し、越冬はスリランカ及びインドから中国南部にかけての沿岸部である（桐原ほか, 2009）。原因については不明だが、2022年から2023年にかけての冬季シーズンには、本来の越冬分布から北東方向へ複数個体が移動する何らかの要因があったものと推察される。

謝 辞

本稿をまとめるにあたり、加藤銀次氏に鹿児島県枕崎市におけるチャガシラカモメの記録をご教示いただいた。福田篤徳氏には2023年の茨城県・千葉県

の記録をご教示いただくとともに文献をご教示・提供していただいた。この場を借りて感謝申し上げる。

引用文献

- 福田篤徳, 2023. チャガシラカモメ. 日本野鳥の会茨城県会報 ひばり, 376: 20.
- 桐原政志・山形則男・吉野俊幸, 2009. 日本の鳥 550 水辺の鳥 増補改訂版. 文一総合出版, 東京, 367 p.
- 日本鳥学会, 2024. 日本鳥類目録改訂第8版. 日本鳥学会, 東京, 506 p.
- 沖縄野鳥研究会, 2010. 改訂版 沖縄の野鳥. 新星出版, 那覇, 367 p.
- Olsen, K., 2018. *Gulls of the World*. Christopher Helm, London, 368 p.
- 大関義明・楠窪のり子, 2005. 千葉県銚子市、茨城県波崎町におけるチャガシラカモメ *Larus brunnicephalus*. 日本鳥学会誌, 54 (1): 53-55.
- 氏原巨雄・氏原道明, 2019. 決定版 日本のカモメ識別図鑑. 誠文堂新光社, 東京, 339 p.